

リンクワードを使った話し合い

薄井 良子 (関西学院大学日本語教育センター)
手科 美保 (関西学院大学日本語教育センター)
内藤 真理子 (関西学院大学日本語教育センター)

1. リンクワードとは何か

リンクワードとは、話を深めたり広げたりする接続詞や副詞などのことである。本実践で使用したトランプ型ツールのカタルタには、このリンクワードが書かれている。

2. 活動例 1

初級後半のクラスでは、既習の接続詞・疑問詞などの復習とアイスブレイクを目的として、初回の授業で本実践を行った。ただし、市販のカタルタの語彙は難度が高いため、既習の語彙から(例: いちばん、どのくらい、失礼ですが)選んでオリジナルの「カタルタ」を作成した。活動は、学生が自己紹介をしたのち、他の学生がカードを引き、それを文頭において質問し、自己紹介者がそれに答えるという形で行った。語彙によっては理解に時間を要し、テンポ良く進まないことがあるため、事前に語彙の意味を全体で確認する必要がある。また、文脈に合わないリンクワードがあるため、複数の手札から自由に選んで質問できるようにするなどの方策を考えたい。

3. 活動例 2

2014年冬学期の中級前半の聴解・会話クラス(7人)を対象に行った。わかりやすくストーリーを説明すること及び接続詞・副詞の復習を目的に行った。活動例1と同様に、レベルに合わせた自作の「カタルタ」(例: ところで、よく、ずっと)を使用した。活動は、3~4人グループで「冬休みにして楽しかったこと」について話すというものだが、聞き手は質問をする際カードを1枚引き、必ずそこに書かれた言葉を使わなければならないこととした。ゲーム性があり、学生には概ね好評だったが、質問したい内容と結びつかないカードがあったという意見も出た。よって、今後は①トピックに合わせてカードを入れ替えること、②印象に残ったやりとりを書くなどの振り返りの方法を考えたい。

4. 活動例 3

活動例2と同じクラスを対象とし、教師と1対1の発音クリニックタイム(10分)を他の6人が順番を待っている間の活動として導入した。1人が「親」になり、「旅行して楽しかった観光地2か所」あるいは「紹介したい人物2人」をテーマに、カードの「これから」「まず」「つぎに」を使って他の2人に説明をした。2人は引いたカードのことばを使って「親」が紹介した内容について質問を繰り返した。教師は、この会話の内容に関与できないので、録音して後日フィードバックしたり、学生に言えなかった表現について振り返らせたりすることで、活動にふくらみが出るだろう。

参考サイト: カタルタ <http://www.kataruta.com/> (参照日: 2015/1/19)